

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100177		
法人名	株式会社 介護ステーション オアシス		
事業所名(ユニット名)	グループホームオアシスⅡ		
所在地	和歌山市つつじが丘2丁目6-1		
自己評価作成日	平成26年4月25日	評価結果市町村受理日	平成26年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/30/1/index.php?act=on_kouhyou_det.ai.2012_022_ki_hon't.rue&ji_gvsoyoQd=3090100177-00&Pr_efQd=30&Versi_onQd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成26年5月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族の希望があれば入所からターミナルまでの一貫したサービスを行っている 利用者さんに寄り添い家庭的な雰囲気の中で利用者さんは職員に甘える事が出来安心して暮らせている又一人一人のニーズの把握に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者が自ら率先垂範し、事業所のすべての職員が思いを一つにして利用者一人ひとりに合わせたサービスの提供に取り組んでいる。また、本人・家族等が希望し、状況が許す限り、看取りに至るまでの一貫したケアの実施を視野に入れている。法人が併設する訪問看護ステーションとの密な連携が可能であり、豊富な看取りの実績がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安全かつ質の高い介護を目指してまず職員に介護職としての自覚を持ってもらうために毎朝理念を言い今月の目標を定めて毎日自己評価を行っている	事業所理念をホールに掲げ、業務開始時の読み上げを通して理念の一層の浸透を図っている。また、月毎の具体的な目標を設定し、管理者と職員は自己評価を行いながら、サービスの質の向上に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は近隣の人と気軽にあいさつを行い又、年に一回大々的に秋祭りをを行い近隣との交流を図っている	日常的に行っている散歩やスーパーへの買い出し等の際には近隣の方や従業員と挨拶を交し、交流のきっかけづくりに努めている。近接する幼稚園の園児の訪問も利用者の楽しみの一つとなっている。又事業所の催す秋祭りの為の、案内状の配布から祭り本番に至る一連の取り組みすべてが地域交流の実践であると位置付けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の介護支援専門員が常時相談を受け付けており、介護の日には気軽に相談できる様チラシ等の配布をしたり。代表者が口演を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や自治会、包括の職員に参加してもらい報告を行っているが会議のメンバーからあまり意見は聞かれない	利用者家族及び包括支援センター職員の出席を得て2月に1回運営推進会議を開いている。以前は自治会役員や民生委員等の地域の代表者の参加はあったが、現在は参加がないため意見の反映も限定されたものとなっている。実りある運営推進会議への取り組みを模索中である。	運営推進会議は事業所が地域密着型サービス事業所としての役割を果たす為に地域の方々の意見等を得る機会であり、地域の代表者の参加は欠かせない。事業所として地域に働きかけると共に、包括支援センター等の協力を得て積極的な働きかけを続け、地域の代表者の会議への出席が実現する事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	指導をあおいだり分からない事等をたずねたり連携を持つ様に心がけている	包括支援センター職員には利用の打診時や運営推進会議の場で、市生活支援課担当者には利用者への訪問時等に、利用状況や事業所が行うケアサービスの実際の取り組みを伝え、助言を得る等双方向の協力関係を築くように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は全くしておらず、いろいろその場で工夫して対応している又、拘束に付いての勉強会も行っている	日々のケアの実践及び月例会議に合わせた勉強会を通して、代表者及びすべての職員が拘束に該当する具体的な行為を正しく理解しており、気づきにくいスピーチロックについても相互に確認しながら、身体拘束の防止を図っている。事業所玄関は夜間、早朝を除き出入りは自由である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待に対して強い関心を持ち何時も注意し虐待等の行為に対して許さない強い姿勢を持っている又その考えは全職員に浸透している 又院内研修もおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な人には後見人制度の利用を行っているが、職員にはあまり知識はないと思われる今後学ぶ機会を作る		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い納得してもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は月に一度以上は来所されるその都度意見や要望を伺い思いを汲み取る様心がけている	利用料等は直接支払いの形をとっており、来訪時に職員は利用者や家族等の意見、要望の聞き取りを積極的に行っている。また、運営推進会議は家族等が外部者に意見等を表明できる機会となっている。日常的な外出の確保等、出された意見や要望を実現に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各部所で月に1度以上はミーティングを行い職員の意見を聞き主任会議において提案している。又代表者は常に事業所訪れ提案を生かす努力をしている。	管理者は月例会議以外にも随時職員の意見や提案を聞き取り、自らの裁量の範囲内であれば速やかに決裁し、必要な事案は代表者に上申する等で反映に努めている。パート職員の正社員への登用が実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格等の取得する様に勤め資格に対して給与に反映する様なシステムになっており又代表者は、職員をよく見ており適材を適所に配置し各人が向上心を持って働ける様工夫されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は常に職員のスキルアップを考えており研修には参加させてくれケアの現場はいりOJT等による技術の向上にも力を入れている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム会へ参加しているが、特に同業者との積極的な交流はない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの開始前からケアマネジャーや職員が関わりを持ちできるだけ本人の声を聞く様に務めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に話を聞き家族の思いを受け止め信頼を得られる様な支援を行う		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談、家族の訴えなどから本人と家族にとって一番必要な支援を決めていく		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に出来る事はやってもらい一緒にゆっくりと楽しくという理念のもとで共に楽しみ助けあう雰囲気づくりに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を行い家族の思いに添いながら支援させてもらう事を伝え頻回の面会をお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問があれば共に喜び再度の来所をお願いしている	訪れやすい雰囲気づくりを心がけ、家族等の訪問時は職員をあげて歓迎している。又墓参り、馴染みの美容院行き、正月の外出等が家族等の協力で実現する等、馴染みの人や場との関係継続の支援を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いつも座る場所を決めておりその場所にいるものがいない心配される		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等されたら度々御見舞に行き経過の把握に努め家族との話し合いを大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月一回職員全員で一人づつについて話し合いその人の希望や思いについて検討できかぎり実現できる様にしている	利用者毎に担当者を決め、担当者は気づきを書面で管理者に報告している。さらに月例会議で利用者一人ひとりにつき職員全員で検討を重ねる事で、より視野を広げて利用者の思いや意向を把握する事が可能となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞き取り、又面会の度に家族と雑談をしたりしながらこれまでの暮らし方や生活歴を把握する		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る力わかる力を正しく評価するため職員が利用者を観察し総合的に判断し又皆で意見の交換をしている。朝の様子表情なども観察しながらその日の過ごし方などを決めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には来所時に状態の説明を行い介護計画書を見てもらいながら話を聞き、ミーティング時に職員の意見を聞いている	本人や家族、かかりつけ医、看護師等の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを盛り込んだ介護計画原案を作成し、さらに職員間で練り上げて、現状に即した介護計画を作成している。又モニタリングを通して状況の変化を捉え、必要な場合は見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者に対する気づきやそれに基づくケアへの実践は行われているが記録にはすべてが記入されていないこともある又申し送りノートに書き込むこともある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り個人のニーズに答えられるように、家族や本人の状態を考えながら支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの度々の慰問、消防署の防災訓練、地域の幼稚園との交流等を心がけているが、地域自治会との協力はあまり得られていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の希望を聞き適切な医療が受けられる様に助言し支援している	かかりつけ医は本人及び家族等が選んでいる。通院は基本的に家族等が行い、職員が実施する場合もあるが、往診の比率の方が高い。情報提供を確実にしながら、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ施設内に訪問看護部門がありすばやく対応している。一日に2～3回は見回りに来てくれ適切な助言がある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の病院との連携は密に行い又ケアワーカーとの連携もとれている。入院されると度々御見舞に行き、情報をもらい、かかりつけ医にも相談を行い早期の退院が出来る様にしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の事も話し合っている、又状態が変化した時はその都度話し合い、家族が納得できる対応をしている	契約時に意向を確認すると共に、状態の変化に合わせて本人や家族等と話し合っている。また、かかりつけ医や看護師等の関係者と方針を共有しながら、本人や家族等の意向に沿った支援をしている。昨年度には3名の利用者の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的には行っていないが代表者は看護師であり職員は個々に指導されている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練は行っているが、災害に対する訓練はしていない地域との連携も少なくもっと協力して頂ける関係を作りたい	年2回消防の立ち会いを得て、主に夜間を想定しての消火・避難訓練を利用者と一緒に行っている。災害対策マニュアルを日頃から確認し、確実な避難誘導を期すると共に、食料・水・毛布等を準備し、災害の発生に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎朝の朝礼で介護理念を頭に入れて仕事を始めるプライバシーは入浴排泄、居室におられる時は特に気をつけている	言葉かけの際の呼称は氏名が原則である。入浴や排泄、居室訪問時等の態度や語調が利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねるものになっていないか日常的に確認し、事業所全体で改善に取り組んでいる。利用者の情報の取扱いには十分に注意し、人目に触れないよう保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを聞きながらできるだけ本人の希望に沿う様にしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のその日の体調、機嫌等を見ながらその日の対応を決めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や毛染めは職員が行っており毎日の服装は本人が決められ職員はアドバイスを行う程度		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの手伝いは喜んでしてくれる又食べたい物を尋ねお好みの物を作り献立と一緒に考えたり食事が楽しみになるようにしている	重度化の進む中で、利用者のすべてが参加できるわけではないが、献立づくりや買い出しをできるだけ一緒にするよう心がけており、準備や後片付けを通して利用者は自分の持てる力を確認している。職員については各自持参の弁当等で食事を摂っている。	食事を楽しむ為には、一連の作業を利用者と職員が一緒に行うと共に、同じ食卓を囲んで同じものを食べる事が大切である。食事は利用者の力を引き出し、他の利用者や職員との良好な関係をつくる重要な場面であると位置づけ、利用者と一緒に同じ食事を楽しめる環境づくりに前向きに取り組む事を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記録を行い少ない時は別の方法を考え、それでも駄目なときは看護師や医師に相談する		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは職員が歯ブラシ・口腔用ティッシュ・水等で綺麗にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	様子を観察し排泄パターンを掴むようにしている	利用者一人ひとりの現状に合わせておむつやパッドを使用しているが、職員の決めつけによる固定化を戒めながら、利用者の示すサインや排泄表でのパターンを把握し、さりげなく誘導する事でトイレでの排泄を支援している。失禁がもたらす利用者へのダメージを十分認識して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に気をつけ朝はヨーグルトなどを食べてもらい水分の摂取にも気を配っている又排泄表を作り適切な排便があるように支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は午後からと決め午後から入ってもらうようにしてる	利用者の希望に応じて入浴できる体制を取っている。利用者の申し出よりも職員が勧める事の方が多いが、くつろいだ気分で安全な入浴の後「いい湯だった」との感想も聞かれる等利用者にとって入浴が楽しみなものとなっている。入浴を拒む利用者については、タイミングを見計らい、職員間のチームプレイで実現に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状況に応じて休息の時間を考え良いリズムが作れる様に支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬に対する目的を理解しており経過の観察も出来ており看護師等に報告も出来ている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事、毎月のお誕生会、カラオケ、外食、ドライブ、買い物、慰問等、気晴らしを行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望通りの外出は出来ない、希望があれば買い物、選挙、墓参りなど家族と相談しながら支援している	事業所は住宅分譲地内にあり、車の往来も少ない為、利用者の希望にそって日常的に散歩に出かけており、利用者からの要望の多い外食は月1回のペースで実施している。又普段は行けないような場所へも、行事に組み入れる事で、家族等の協力を得ながら出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は持ってもらわない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されれば電話をかけたリ又かけてもらってりしています 今手紙の書ける人はいません		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るいろビングで自分の座る場所があり、温度や光に気をつけ居心地の良い様に工夫している、又季節の花や飾りを行い落ちつける雰囲気作りをしている	共用空間での五感刺激には十分に配慮しており、特に臭いについては全職員が常に注意を払っている。ホールには共同製作の日めくりや行事のカレンダー、季節の花等が施され、生活感や季節感を醸し出している。ホール内に適宜配置された椅子やソファも格好のくつろぎの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過せる居室もあり皆と過せるリビングもある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	誕生日の写真を飾ったり季節を感じられるレイアウトを行ったりして落ち着ける様に工夫しているが、なじみの物や自分の物の持ち込みは少ない	居室の入口横には利用者本人の写真を掲げて部屋の判別を容易にしている。居室内は、本人の使い慣れた馴染みの物を程よく置く事で、自宅との違いによる不安やダメージをできるだけ少なくし、その人らしく安心して過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下には手摺をつけ歩きやすい様に工夫している		